

リニアやまなしビジョン素案（概要）

1. 策定の趣旨

- ・リニア開業は大きな転換点であり、県内経済にとってまたとないチャンスであるが、受け身の姿勢でいけば、ただの通過点となってしまう
- ・目的地として選ばれるための理由づくりが必要であり、山梨百年の計として、千載一遇のチャンスをつかみ取り、確実に山梨に富を呼び込むため、リニアがある山梨が目指す姿を示し、その実現に向けた基本的な指針として策定

2. ビジョンの位置付け・目的

◇上位計画との関係

- ・「山梨県総合計画」を上位計画とし、「戦略1:攻めの『やまなし』成長戦略」の部門計画

◇目的

- ・リニア駅を利用して国内外の人々に積極的に山梨に来ていただくための方策を示し、選ばれる県としての地位を確立し、県内の良質な雇用の拡大、県民の所得の向上に繋げていく

3. リニア開業により期待される効果

◇劇的な時間短縮

- ・東京都心から約25分、名古屋から約45分で結ばれ、国際空港からのアクセスも格段に向上

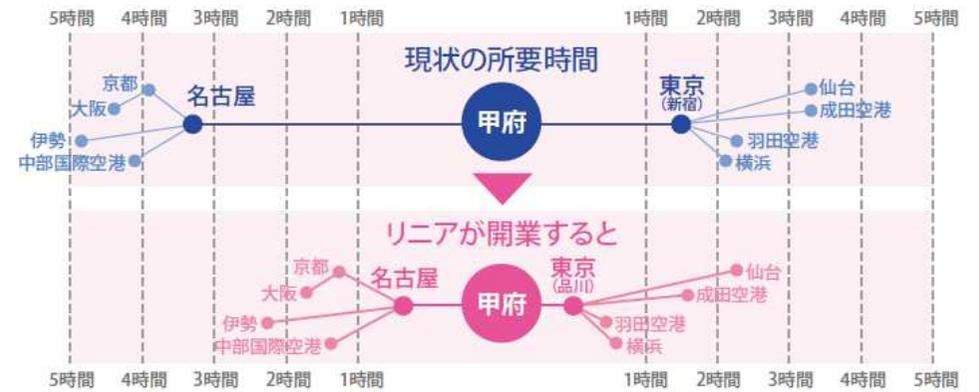
◇スーパー・メガリージョン構想における4つのインパクト

- ① 新たなイノベーションを生み出す
フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションの機会の増加等によるイノベーションの創出
- ② 暮らしに多様な選択肢がもたらされる
働き方や暮らし方を制約する時間と場所からの開放によるライフスタイル等の変化
- ③ 海外からの魅力向上につながる
新たなライフスタイルの実現等による、海外へのアピール・外国人旅行者の地方への誘客促進
- ④ 高速交通ネットワークの多重性・代替性を強化する
国土の骨格に関わる高速交通網の多重性・代替性強化による持続的な人・モノの流れの確保

4. 本県の強みと弱み

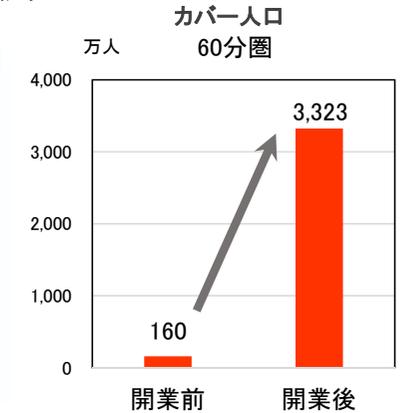
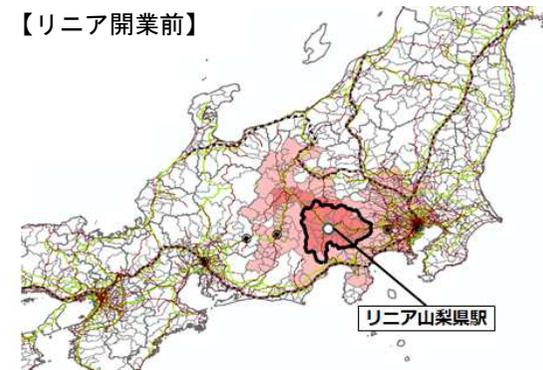
強み	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然環境に囲まれながら、大都市へアクセスしやすい立地環境 (世界文化遺産富士山、東京圏・中京圏の中間に位置、大都市より安価な地価 等) ○他の中間駅に比較してビジネスしやすい環境 (リニア駅の位置が県都、平坦な用地 等) ○本県が誇る地域資源 (水素・燃料電池関連技術の蓄積、日本トップレベルの健康寿命、生産量全国1位のぶどう・もも・すもも、清冽で豊富な水、全国有数の長い日照時間 等) ○大規模災害の少なさ
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ○若者世代が希望する就職先が少ない ○少子高齢化、生産年齢人口の減少が全国平均より進む ○アカデミアの研究が産業に十分活かされていない ○情報発信力の不足

〔リニア開業による時間距離の短縮〕

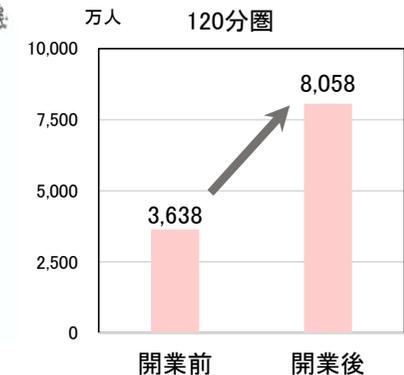
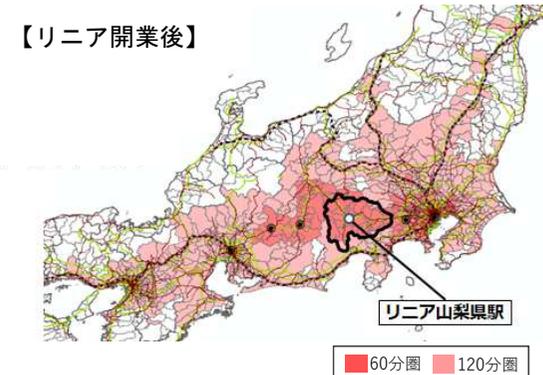


〔交流可能な経済的勢力圏の広がり（60分圏、120分圏）〕

【リニア開業前】



【リニア開業後】



5. 目指す姿と実現に向けた取り組み

◇ リニアがある山梨が目指す姿

テストベッドを突破口に最先端技術で未来を創る オープンプラットフォーム山梨

様々な地域課題の解決に繋がる「テストベッド」の提供を突破口に、国内外の優秀な研究者等が結集し、新たな産業の創出、関連産業の集積や研究開発機能の拠点の形成により「稼ぐ力」を生み出しつつ、世界に先駆けて新たな価値を創造する近未来の窓口としての地位を確立し、オープンプラットフォームで世界に貢献している山梨を目指す

◇ 目指す姿の実現に向けて取り組む施策

※「テストベッド」とは実際の運用環境に近い状態で先端技術の実証実験を行う“場”のこと

施策：地域特性を活かしたテストベッドの聖地化

リニア開業を待たずに、地域特性を活かした実証実験が盛んに行われる環境づくりを進め、次世代を拓く才能豊かな人材の交流を生み出し、新たなイノベーションが創発される「テストベッドの聖地」としての地位を早期に確立し、国内外に向けて強力に情報発信していく山梨への転換を図ることで、更に有能な人材の対流を山梨で惹起し、その先に見据える関連産業や研究開発機能の集積の原動力となる好循環サイクルの構築によって、県内の良質な雇用の拡大、県民所得の向上に繋げていく

○ 地域特性を活かしたテストベッド分野

■ 優先的に取り組む分野

- 豊富な研究実績と技術シーズが蓄積された「水素・燃料電池関連技術」を中核として、脱炭素社会の実現に向けたテストベッドの誘致に優先的に取り組む

クリーンエネルギー

世界最高レベルの水素・燃料電池関連技術を駆使して、CO₂フリー水素社会の実現に貢献

- ・水素の製造・貯蔵・利用の一気通貫した技術の実用化
- ・大幅なコスト削減に向けた研究開発の加速化
- ・世界に先駆けて水素社会を実装するモデル都市の形成

■ その他の地域特性を活かした分野

- 先端技術の活用により、健康寿命日本一などの本県の強みを更に伸ばしていくことが有効。また、生活の質の向上や地域課題の解決に資する分野についても、関連企業や地元市町村等と調整を図りながら取り組む

ライフサイエンス	次世代モビリティ	無人配送
ビッグデータを活用した高度な予防医療システムの導入	リニア駅発着の次世代モビリティによるシャトルバス運行や中山間地域でのAIタクシー運行	中山間地域での買い物支援や災害時の緊急物資輸送に資するドローンやUGVの活用
スマート農業	自然環境保護・野生鳥獣管理	陸上養殖
病害虫診断システムや自動・半自動で農作業を行う農業ロボット等の導入	ドローン及び画像解析を利用した精度の高い野生鳥獣の生息位置把握手法の開発。ドローンによるわなへの誘導技術の開発	魚の体調・体重測定自動化や、水温・酸素量・給餌等の自動制御など、AI・IoTを活用した生産の自動化

○ 取り組み手順

- 「テストベッドの聖地」として選ばれる山梨に向けて、ビジョン策定後速やかに、以下の手順で取り組みを進めていく

STEP 1 誘致ターゲットの選定

県内の地域課題等の把握・整理、人脈や知見を有するアドバイザーの活用、事業者等との対話を通じて業界ニーズや課題を把握、訴求ポイントの整理

STEP 2 プロモーション活動

企業訪問等によるポテンシャルや魅力の発信、知事のトップセールス、ビジネスグランプリなどの仕掛けづくり、ワンストップ支援体制の構築

STEP 3 実証実験の環境整備

国家戦略特区による規制緩和、県内関係企業等との連携体制の構築、実証フィールドの確保に向けた地元調整、資金的な支援の仕組みの構築

STEP 4 実証実験の実施

実証実験の内容やプロセス、成果の積極的な情報公開、実証実験への参画や先端技術を体験・体感できる機会の確保

STEP 5 実証実験から社会実装への移行

社会実装に向けた規制緩和やガイドライン策定等による支援

◇相乗効果を期待して取り組む施策

- ・テストベッドの提供を突破口に、活発な交流をつくり出すことで、先端技術の社会実装による生活の質の向上や、新たな産業創出と県内産業の活性化、クリエイティブな交流機会の創出、優秀な人材や先端技術に触れる機会の増加が期待される
- ・これらの効果をより確かなものにするため、次の施策を積極的に展開していく

施策1：関連産業の集積と研究開発機能の拠点形成

- **先端技術を有する企業等の集積を加速化させ、新たな産業を興す一大拠点を形成**
 - ・新たなビジネスチャンスを探るため山梨進出を目論む企業等に積極的にアプローチし、核となる企業等の誘致を引き金に関連産業や研究開発機能の集積を加速化

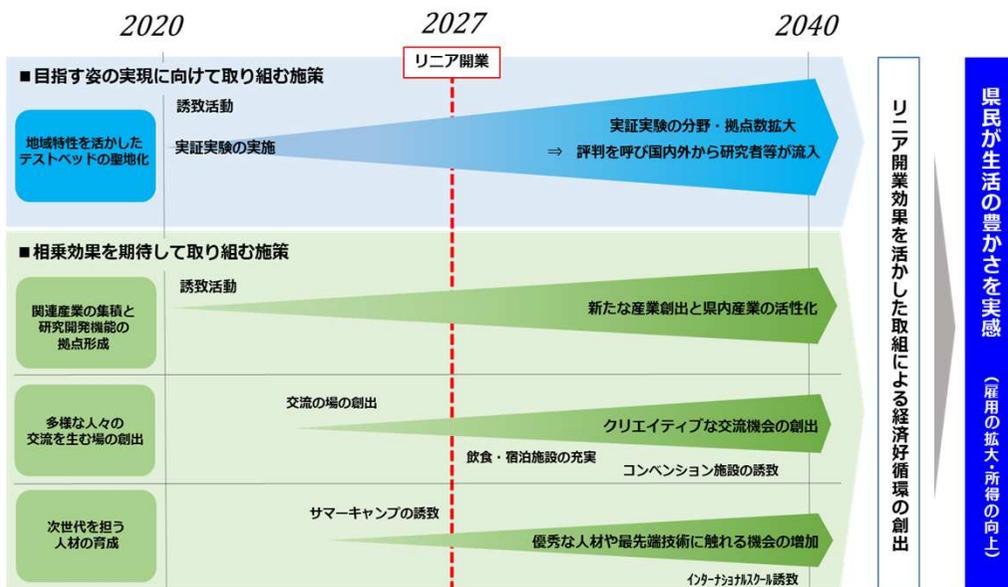
施策2：多様な人々の交流を生む場の創出

- **クリエイティブな人材や企業等を惹き付ける上質な交流空間を創出**
 - ・様々な交流を生む「場」に対するニーズの高まりを捉え、山梨が誇るワインや県産食材を活用した付加価値の高い食、上質なホスピタリティを提供できる飲食・宿泊施設等の充実や、コンベンション施設の誘致などへ繋げていく

施策3：次世代を担う人材の育成

- **グローバル人材や先端技術に触れられる環境を活かした技術者等の人材育成**
 - ・優秀な人材や先端技術に触れられる環境を活かし、小中学生を対象にサマーキャンプ等の教育プログラムに取り組むとともに、国内外から集まる研究者等の生活環境の向上に資するインターナショナルスクールの誘致へ繋げていく

〔施策展開のイメージ〕



6.災害に強いリニアを活かした防災力の強化

◇想定される巨大災害

- ・国土に激甚な被害をもたらす首都直下地震、南海トラフ地震等

◇大規模地震発生時における国の防災拠点

- ・緊急災害対策本部は原則として首相官邸に設置され、代替施設が都内に三か所
- ・人員・物資について広域的な支援を行う基幹的広域防災拠点（有明の丘など）

◇国の防災バックアップ機能の本県への誘致

- 国の防災バックアップ機能を誘致するとともに、本県自身の防災力を強化し、県民の安全・安心の確保、企業立地を促進
 - ・リニアの速達性と地震時の安全性に加え、本県は現在想定されている大規模地震の震源地から外れているとともに、東京圏・中京圏・静岡方面へのアクセス性に優れるなど、国の防災バックアップ機能の整備に優位性
 - ・今後、誘致の対象となる具体的な機能、必要規模、方策を検討。また、リニア本線の明かり区間における十分な防災対策をJR東海に強く働きかけ

7.開業に向けて特に必要となる社会基盤の整備

◇新たなゲートウェイに必要となる機能

- 円滑な移動や乗り換えができる交通結節機能の整備
（施設例）公共交通ロータリー、一般車ロータリー、バス・タクシー乗降場、駐車場、駐輪場、パーソナルモビリティ等の乗降スペース、広場、充電スタンド、水素ステーション
 - ※ 地元市の主体的な取り組みを尊重するとともに、県、地元市、民間の役割分担を明確にしつつ、駅前エリア整備に係る検討会議を立ち上げ、整備する施設内容を検討
- その他、飲食・物販、宿泊のサービス機能など、駅周辺に立地が期待できる各種機能は、まちづくり政策等で民間資本の誘致や誘導を検討

◇県内交通ネットワークの充実

- 開業効果を県内全域へ波及させるため、リニア駅を中心としたアクセスを向上
 - ・アクセス圏域を拡大する道路整備を着実に推進（中部横断道、新山梨環状道路等）
 - ・リニア駅と県内主要拠点とを結ぶバス交通の整備
（特に小井川駅との間にシャトルバスの導入を検討。併せて、南アルプス市方面や峡東方面への延伸を視野に入れながら、自動運転やMaaSなど次世代交通システムの導入も検討）

◇5G環境の整備

- テストベッドの呼び水とするため、事業者が5Gサービスを活用しやすい環境を整備
 - ・5G基地局アンテナの設置に係る公共施設等の開放
 - ・県の情報ハイウェイの活用によるローカル5G等の拠点間通信の実現

8.ビジョンの推進体制

◇様々な主体とのパートナーシップ

- ・県民、市町村、関係団体、民間企業等とオール山梨で取り組む

◇庁内体制

- ・全庁的なビジョン推進本部の設置
- ・ワンストップ窓口の設置
- ・アドバイザーを活用した誘致活動

◇進捗管理

- ・定期的に進捗を管理し、環境の変化に柔軟かつ俊敏に対応